

私立大学新入生の家計負担調査

2010年度

< 抜粋 >

2011.4.26

東京私大教連

は じ め に

本調査は、2010年4月に首都圏の私立大学・短期大学（以下、私立大学）に入学した新入生の家計負担の状況をまとめたものです。

わが国の私立大学・短期大学は学生数で約75%、約227万人が学んでいます。学校数でも8割以上を占め、高等教育における重要な役割を担っています。私立学校振興助成法では教育条件の改善、学費負担の軽減等のため「私立大学への経常費2分の1補助」の早期達成を目標として定めています。また、1975年7月に私立学校振興助成法が成立した際、参議院文教委員会の附帯決議では「私立大学に対する国の補助」を「できるだけ速やかに2分の1とするよう努めること」とされています。しかし、私立大学の経常費に占める補助金の割合は、1980年度の29.5%をピークに減少の一途をたどり、2009年度はわずか10.8%でしかありません。

日本の高等教育への公財政支出は、GDPに占める割合がOECD加盟国平均1.0%の半分で0.5%と、最低水準です。国内では私立大学と国立大学との予算にも依然として大きな格差があります。国の補助を学生一人当たり換算した額は、国立大学が188万円であるのに対して、私立大学はわずか14万円と、国立の13分の1でしかありません（2009年度）。奨学金制度も国立大学に比べて著しく乏しく、学費負担は過重なもので、長引く不況に加え東日本大震災の影響などにより、経済的理由から私立大学への進学を断念する高校生や退学を余儀なくされた私立大学生が増えています。こうした結果、憲法に保障されている教育の機会均等が根底から脅かされています。

今回の調査結果からも、各家庭の教育費負担がもはや限界に達している状況が読み取れ、経済的負担を軽減することが急務である現状が浮き彫りになっています。

昨年4月からは、高校授業料の無償化制度がスタートしました。私立大学生にも同様に、学費負担を軽減するための新たな助成制度が望まれています。私たちは、無利子奨学金制度の拡充と給付制奨学金の創設、私大助成の増額などによる各家庭の経済的負担の軽減、国際人権規約「高等教育漸進的無償化」条項の「留保撤回」をめざしています。

調査結果の発行にあたり、ご協力いただいた新入生の保護者のみなさまに心から感謝するとともに、この調査結果が各方面で広く活用されることを強く望むものです。

2011年5月

東京私大教連中央執行委員会

目 次

「私立大学新入生の家計負担調査」について

調査の目的・経過・特徴	5
今回の調査の実施状況（調査方法・時期・回収数、調査の対象）	6
東京私大教連について（組織名・英文名、連絡先、ホームページ、組織概況）	6

第1章 2010年度調査のエッセンス

1 「受験から入学までの費用」は自宅外通学者で213万円	7
2 「入学の年にかかる費用」（自宅外通学者）は299万円、年収の34%で過去最高	9
3 月平均の仕送り額は9万1600円で過去最低額を更新中 1日の生活費は1017円でピーク時(1990年)の半分以下	11
4 奨学金を「希望する」と「申請した」が3人のうち2人に 「希望する」「申請した」は調査開始以来、過去最高	13
5 入学費用は5人に1人が「借入れ」で調達。借入額は158万円 9割を超える家庭が入学費用を「重い」と感じている	15

第2章 「2010年度の家計負担調査」結果

基本データの構成	17
家庭の状況と世帯の税込年収	20
A 家庭の状況 B 世帯の税込年収 C 教育費のかかる子どもの数	
受験時の支出	24
A 受験費用 B 受験回数 C 入学校以外の大学への支払い	
入学時の住居費	28
毎月の仕送り額	30
受験から入学までの費用	32
「入学の年にかかる費用」と「税込年収に占める割合」	34
「入学費用の調達」と「借入れ額」	36
A 学費などの「入学に必要な費用」の調達 B 入学費用の借入れ額	
「受験から入学までの費用」の負担感	39
奨学金について 希望、希望者の申請状況	41
XI 授業料への直接助成制度	43
切実な父母の声（アンケートの記述部分より抜粋）	45
参考資料	50

「私立大学新入生の家計負担調査」について

調査の目的・経過・特徴

1. 調査の目的

私立大学の問題を考える重要なデータとして、首都圏の私立大学に入学した新入生の家計負担の状況について明らかにすることを目的とした調査である。

2. 調査の経過

1. 最初の調査は1983年度で、「私立大学生の家庭」を対象として実施された。
2. 1985年度から調査の対象を「新入生の家庭」に限定した。今回の2010年度調査は、対象を新入生の家庭にしぼってから26回目となる。調査の結果は、1985年度から公表している。
3. これまでの調査を通じ、少しずつ調査票の設問を改善してきている。

3. 本調査の特徴

本調査は下記に紹介する調査とちがい、次の点に特徴がある。

1. 私立大学の新入生を対象とした調査であること。
2. 家計負担の状況を保護者（父母）の側から明らかにしていること。

参 考

よく知られている教育費調査に次のものがある。大学を対象とした調査は と だが、いずれも国公立大学を含むもので、回答者は主として大学生・大学院生である。

「学生生活調査」（日本学生支援機構、隔年調査、対象は国公立の大学生と大学院生）

「学生の消費生活に関する実態調査」

（全国大学生生活協同組合連合会、毎年調査、対象は国公立の大学生と一部父母）

「子どもの学習費調査」

（文部科学省、隔年調査、対象は公立の小・中学生、公私立の高校生の保護者）

ほかに総務省の「家計調査」、厚生労働省の「国民生活実態調査」などがある。

今回の調査の実施状況

1. 方法・時期・回収数

1. 依頼・回収とも郵送により、2010年5月～7月にかけて実施した。
2. 調査票は「私立大学新入生の家計負担についてのアンケート」を使用し、6,181件を回収した。有効回答は6,166件で99.8%であった。

2. 調査の対象

1. 2010年度に私立大学（短期大学を含む）に入学した新入生の家庭（保護者・父母）を対象とした。
2. 対象となった大学は、1都5県（東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、栃木）にある下記の18大学・短大である。

東京（10校）	工学院大学 東京家政学院大学 武蔵野美術大学 和光大学	中央大学 日本大学 明治大学 早稲田大学	東京経済大学 日本大学短期大学部 明治薬科大学
神奈川（1校）	麻布大学		
埼玉（1校）	獨協大学		
千葉（2校）	国際武道大学	東邦大学	
茨城（1校）	筑波学院大学		
栃木（2校）	作新学院大学	作新学院大学女子短期大学部	

東京私大教連について

1. 組織名 トウキョウシダイキョウレン 東京私大教連（フルネーム＝東京地区私立大学教職員組合連合）
2. 英文名 Tokyo Federation of Private University Faculty and Staff Unions
3. 連絡先 〒169-0075 東京都新宿区高田馬場2-5-23 第1桂城ビル3階
TEL 03(3208)8071 FAX 03(3208)0430
E-Mail tsk@tfpu.or.jp
4. ホームページ <http://www.tfpu.or.jp>
5. 組織概況

1. 1都9県（東京、千葉、埼玉、神奈川、群馬、茨城、栃木、山梨、長野、新潟）の短期大学を含む私立大学の教職員組合で構成する連合体。上部団体は日本私大教連（日本私立大学教職員組合連合）。
2. 加盟組合数は2011年4月現在、70組合（80大学・短大）組織人員は約1万人。

第 1 章

2010年度調査のエッセンス

1 「受験から入学までの費用」は自宅外通学者で213万円

・()内は対前年度との比較

(注)初年度納付金は、2009年度(平成21年度)データを使用しています。

1. 「受験から入学までの費用」は、自宅外通学者は213万846円で前年度比1000円(0.1%)増額した。自宅通学者は151万8046円で前年度比1万4400円増額した(表1)
2. 「受験から入学までの費用」の内訳は、自宅外通学者で受験費用、家賃、敷金・礼金が増額、生活用品費が減額した(表1、図1)
3. 自宅外通学者の「受験から入学までの費用」の構成では、初年度納付金が6割を占める(表2)

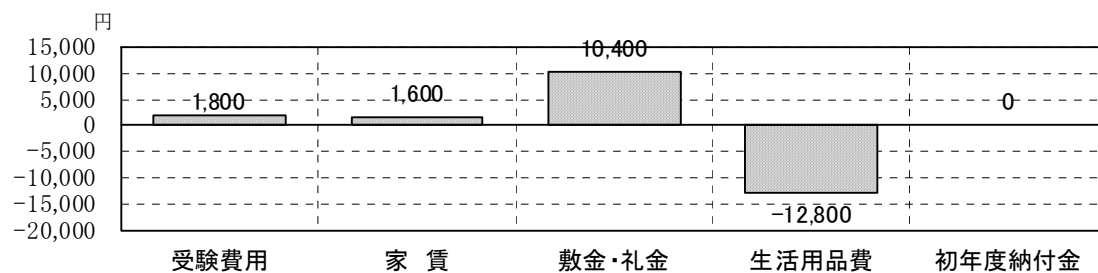
表1 受験から入学までの費用(住居別)

費用の内訳	自宅外通学			自宅通学		
	額	前年度増減額	同増減率	額	前年度増減額	同増減率
受験費用	239,400 ^円	1,800 ^円	0.8 [%]	205,900 ^円	14,400 ^円	7.5 [%]
家賃	61,100	1,600	2.7			
敷金・礼金	215,800	10,400	5.1			
生活用品費	302,400	-12,800	-4.1			
初年度納付金(*)	1,312,146	0	0.0	1,312,146	0	0.0
合計	2,130,846	1,000	0.1	1,518,046	14,400	1.0

*初年度納付金は、文部科学省「平成21年度私立大学入学者に係る初年度学生納付金平均額(定員1人当たり)」による。

*初年度納付金のうち、授業料は年2回(前期と後期)に分けて大学に納付することになっている。

図1 費目別の対前年度増減額（自宅外通学者）



(注) 初年度納付金は、2009年度（平成21年度）データを使用のため前年度との差はない。

表2 「受験から入学までの費用」の構成比（自宅外通学者）

年 度	受 験 費 用		私大初年度納付金		入学時の住居費		合 計	
	額	構成比	額	構成比	額	構成比	額	増減率
08	240,200	11.3	1,309,061	60.8	600,200	27.9	2,149,461	1.4
09	237,600	11.1	1,312,146	61.6	580,100	27.3	2,129,846	-1.1
10	239,400	11.2	1,312,146	61.6	579,300	27.2	2,130,846	0.1

(注) 初年度納付金は、2009年度（平成21年度）データを使用のため前年度との差はない。

2 「入学の年にかかる費用」(自宅外通学者)は299万円 年収の34%で過去最高

・()内は対前年度との比較

「入学の年にかかる費用」は「税込収入」の34%(自宅外通学者)

1. 自宅外通学者の「入学の年にかかる費用」は298万9246円で、前年と比べ1万5000円(-0.5%)減額した。
父母・学生の裁量でいちばん出費をおさえることができる「仕送り額(4月~12月)」は、85万8400円(-1万6000円)で前年度より減少した(表3、図2)。
2. 自宅外通学者世帯の「税込収入に占める『入学の年にかかる費用』」の割合は34.0%で、年収880万3000円の3分の1を占め、家計負担の大きさを示している(図3)。

世帯の平均年収は885万5000円(有所得者数1.7人)で減少傾向が続く

3. 世帯の「税込年収」は、全体平均が885万5000円(-1.5%)で、1989年以来20年ぶりに800万円台となった昨年に続き2年目となる(図4)。なお、世帯の有所得者数の平均は、1.7人である。
4. 世帯の「税込年収」を住居別で見ると、自宅外通学者が880万3000円(-0.2%)、自宅通学者が889万8000円(-2.4%)で、ともに減少した。(表5)。

表3 自宅外通学者の「入学の年にかかる費用」

	受験費用	住居費	私大初年度 納付金	仕送り額 (4月~12月)	合計	前年度比
平均	239,400 ^円	579,300 ^円	1,312,146 ^円	858,400 ^円	2,989,246 ^円	-0.5%
増減額	1,800	-800	0	-16,000	-15,000	

図2 入学の年にかかる費用(自宅外通学者)

受験から私立大学 入学までの費用 213万846円	+	仕送り額 (4月~12月) 85万8400円	=	入学の年にか かかる費用 298万9246円
---------------------------------	---	------------------------------	---	------------------------------

・「仕送り額」の4~5月分は「5月の仕送り額」(10万8600円)を、
6~12月分は「6月以降(月平均)」の仕送り額(9万1600円)をもとに算出。

図3 税込年収に占める「入学の年にかかる費用」の割合(自宅外通学者)

入学の年にかかる費用 298万9246円	=	税込年収に 占める割合 34.0%
平均税込年収(自宅外) 880万3000円		

表4 「入学の年にかかる費用」の推移（住居別）

住居別	2004年度	05	06	07	08	09	10
自宅外	3,085,994 ^円	3,101,156 ^円	3,072,420 ^円	3,021,926 ^円	3,046,761 ^円	3,046,761 ^円	2,989,246 ^円
(増減比)	0.1%	0.5%	-0.9%	-1.6%	0.8%	-1.4%	-0.5%
自宅	1,476,894 ^円	1,490,456 ^円	1,491,220 ^円	1,489,726 ^円	1,500,361 ^円	1,503,646 ^円	1,518,046 ^円
(増減比)	0.6%	0.9%	0.1%	-0.1%	0.7%	0.2%	1.0%

・自宅通学者については、毎月の生活費や小遣いなどを調査していないため「受験から入学までの費用」をそのまま使用している。

図4 「世帯の税込年収」の推移（全体平均）～2010年は885.5万円（有所得者1.7人）、ピークは1993年

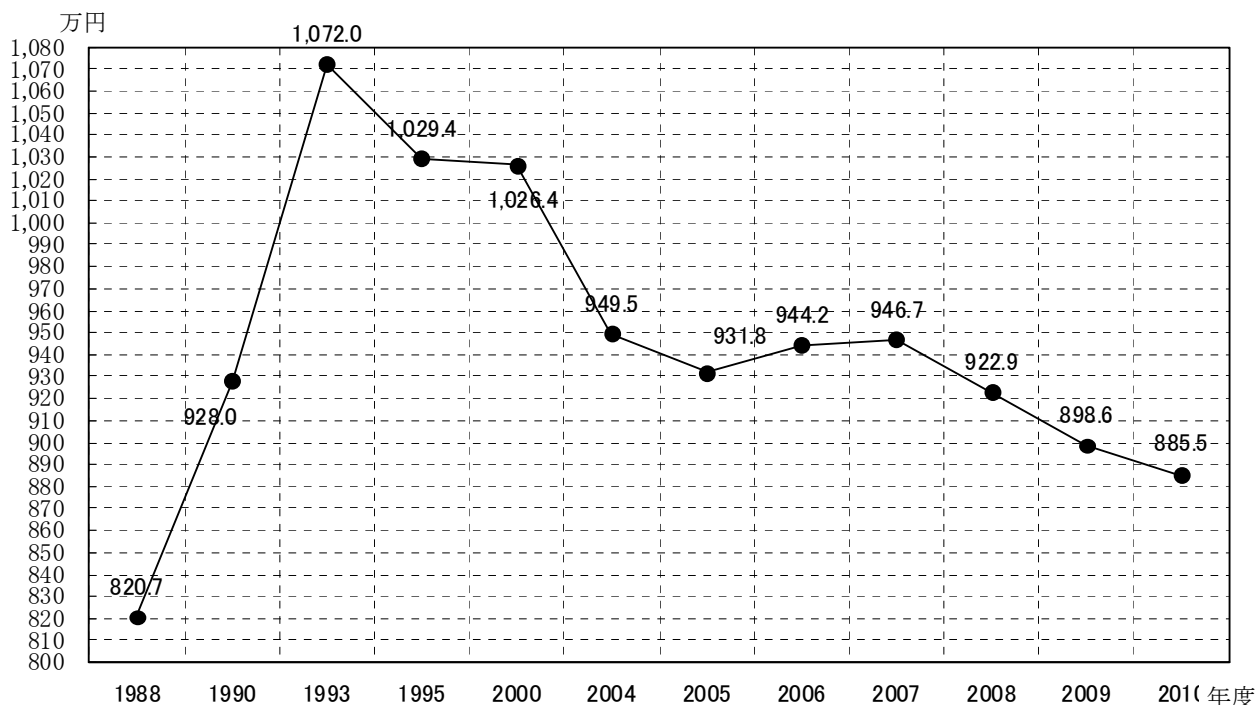


表5 「税込年収」と「対前年度増減比」の推移（全体／住居別）

全体・住居別		2002年度	03	04	05	06	07	08	09	10
全体	年収	988.1 ^{万円}	992.9 ^{万円}	949.5 ^{万円}	931.8 ^{万円}	944.2 ^{万円}	946.7 ^{万円}	922.9 ^{万円}	898.6 ^{万円}	885.5 ^{万円}
	増減比	-3.1%	0.5%	-4.4%	-1.9%	1.3%	0.3%	-2.5%	-2.6%	-1.5%
自宅外	年収	981.3 ^{万円}	1000.1 ^{万円}	949.1 ^{万円}	967.4 ^{万円}	947.2 ^{万円}	960.9 ^{万円}	915.9 ^{万円}	882.1 ^{万円}	880.3 ^{万円}
	増減比	-2.8%	1.9%	-5.1%	1.9%	-2.1%	1.4%	-4.7%	-3.7%	-0.2%
自宅	年収	995.5 ^{万円}	988 ^{万円}	949.3 ^{万円}	901.0 ^{万円}	941.9 ^{万円}	934.3 ^{万円}	929.8 ^{万円}	911.5 ^{万円}	889.8 ^{万円}
	増減比	-3.3%	-0.7%	-3.9%	-5.1%	4.5%	-0.8%	-0.5%	-2.0%	-2.4%

3 月平均の仕送り額は9万1600円で過去最低額を更新中 1日の生活費は1017円でピーク時(1990年)の半分以下

1. 「仕送り額」の平均は、入学直後の新生活や教材の準備で費用がかさむ「5月」が10万8600円、出費が落ちつく「6月以降(月平均)」が9万1600円といずれも前年度から減少した。「6月以降」の仕送り額は、前年の9万3200円をさらに下回り過去最低額となった。(表6、図5)

「6月以降」の仕送り額を過去最高だった1994年の12万4900円と比較すると、ピーク時より3万3300円減少し、15年間に4分の1減少した。(図5)

2. 「家賃」の平均は6万1100円となり前年比で1600円増額した。「6月以降」の仕送り額9万1600円に占める「家賃」の割合は66.7%となり、1986年度のデータ以来、過去最高となった(表7、図6)

3. 「6月以降」の仕送り額から「家賃」をのぞいた生活費は3万500円で、一日あたりの生活費として算出すると、1017円(3万500円÷30日)になる。2010年度の一日あたりの生活費は、ピークである1990年度の2460円(7万3800円÷30日)に比べると、43.4%にあたり半分以下になる(図7)。

不足する生活費は、アルバイト等の収入でおぎなっていることが推察される。

表6 「5月の仕送り額」の推移

1986年度	90	95	2000	05	06	07	08	09	10
112,400 ^円	133,900 ^円	151,200 ^円	145,100 ^円	124,100 ^円	116,000 ^円	115,900 ^円	113,700 ^円	111,000 ^円	108,600 ^円

図5 「6月以降の仕送り額(月平均)」の推移

～ ピークは1994年の124,900円、2010年は91,600円で過去最低額

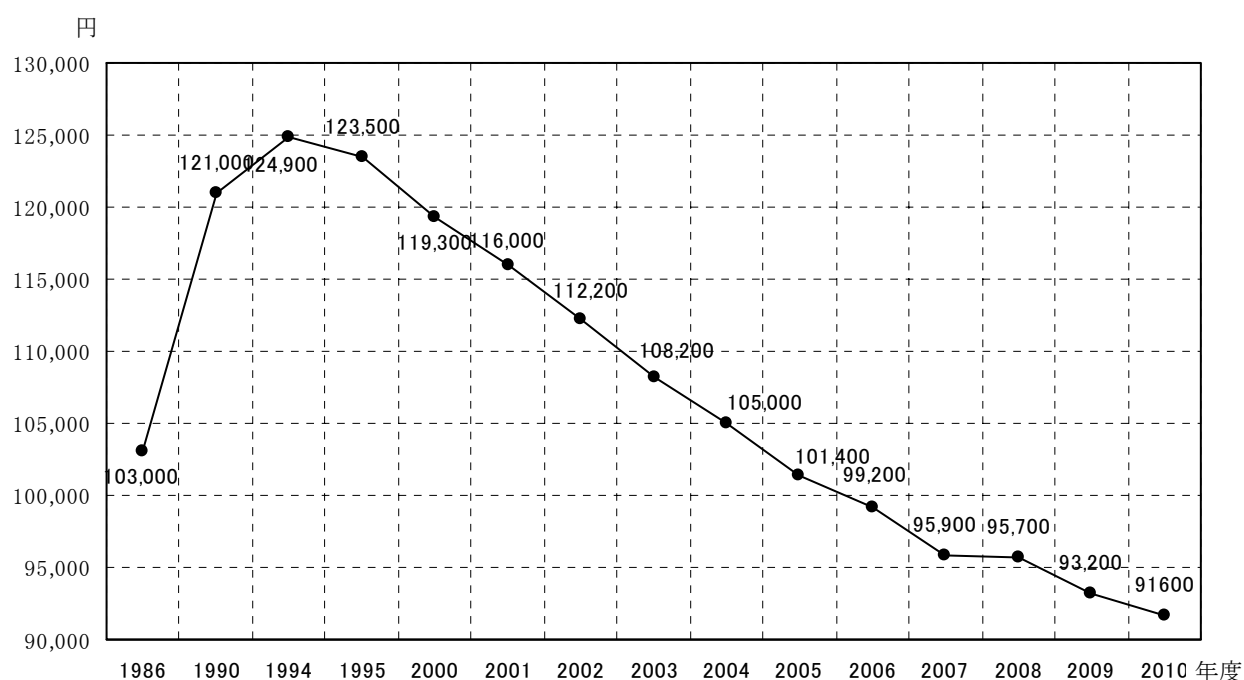


表7 「毎月の家賃」の推移

1986年度	90	95	2000	05	06	07	08	09	10
34,700 ^円	48,300 ^円	55,300 ^円	59,600 ^円	58,700 ^円	60,100 ^円	59,200 ^円	59,700 ^円	59,500 ^円	61,100 ^円

図6 「6月以降の仕送り額(月平均)」に占める「家賃の割合」の推移

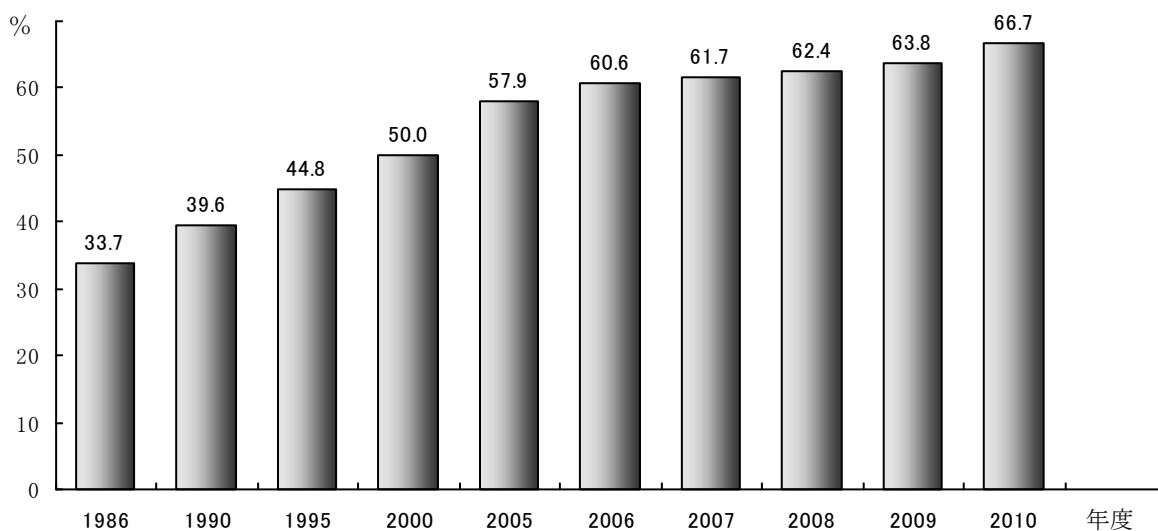
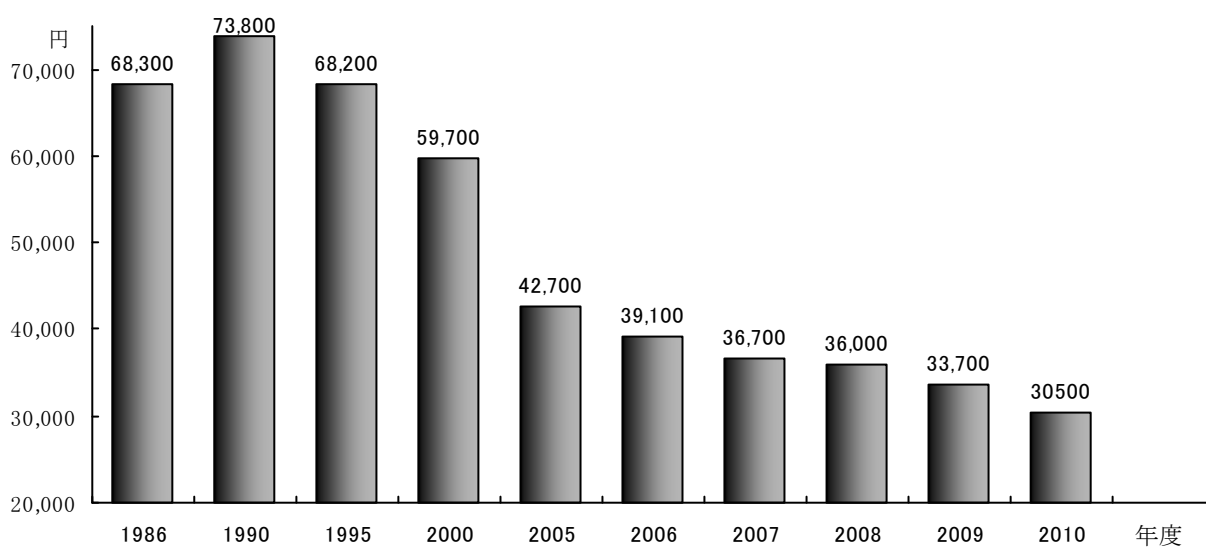


図7 「6月以降の仕送り額(月平均)」から「家賃」を除いた生活費の推移 ~ピークは1990年の7万3800円



*2010年度の1日あたりの生活費は、1,017円(3万500円÷30日)である
(最高時となる1990年度の1日あたりの生活費は2,460円)

4 奨学金を「希望する」と「申請した」が3人のうち2人に - 「希望する」「申請した」は調査開始以来、過去最高

1. 日本学生支援機構（旧日本育英会）を含む奨学金は、「希望する」と希望者のうち「申請した」が全体平均でもに6割を超え、調査以来、過去最高になった。住居別では、「自宅外通学者」で「希望する」と「申請した」が7割を超えている。（表8）年収が低いほど「申請した」が高くなる傾向にある（表9）。

（*「希望する」は1992年度から、「申請した」は1985年度から調査を実施）

2. 日本学生支援機構がまとめた奨学金受給率合計は34.7%（2009年度実績）である。その内訳は私立大学生で33.2%であり、国公立大学生の40.3%と比べても低い。先進国のなかで給費制奨学金がないのは日本だけである。

3. 私立大学の授業料に対する国からの「直接助成制度（*）」を「必要する」との回答は全体で85.2%であり、新入生家庭の8割以上がこの制度を待ち望んでいる（図8・表10）

* 直接助成制度...国が家庭に直接交付する返済の必要のない私立大学授業料への補助制度。
現在、この制度はない。

* 全国の自治体では私立高校生への授業料補助が行われている。

* 国は2010年度から公立高校の授業料無償化及び私立高校への高等学校等就学支援金を創設した。

表8 「奨学金の希望」と「希望者の申請状況」の推移（全体／住居別）

年度	奨学金を「希望する」			希望者で奨学金を「申請した」		
	全 体	自 宅 外	自 宅	全 体	自 宅 外	自 宅
	%	%	%	%	%	%
1985	-			25.4	33.2	15.4
90	-			32.0	41.9	21.1
92	56.4	（「希望する」の調査開始）		48.8	58.3	35.7
95	57.8	64.9	50.8	40.1	49.5	28.3
2000	61.9	68.1	55.2	48.7	56.1	38.6
05	59.4	66.7	52.9	54.2	60.3	47.2
06	61.1	67.8	55.6	59.3	67.8	50.7
07	63.2	69.0	57.6	62.0	68.6	54.2
08	64.0	71.0	58.0	62.9	73.6	53.6
09	66.2	74.5	59.7	63.3	70.9	55.8
10	67.9	75.4	62.1	64.2	72.3	56.6

表9 奨学金希望者の申請状況 「申請した」の推移（税込年収別）

年度	50万円 未 満	500～ 600万	600～ 700万	700～ 800万	800～ 900万	900～ 1,000万	1,000～ 1,100万	1,100～ 1,300万	1,300～ 1,500万	1,500～ 1,700万	1,700～ 1,900万	1,900～ 以 上
08	80.7%	77.1%	74.9%	69.3%	65.1%	60.7%	52.2%	49.0%	40.0%	28.2%	6.6%	23.3%
09	76.9	73.8	72.6	69.0	65.8	62.0	50.4	50.9	34.3	21.9	36.1	24.1
10	82.1	72.7	73.0	70.9	66.4	61.3	50.3	49.3	39.2	31.2	19.4	18.5

図8 「授業料への直接助成制度」の必要性（全体／住居別、費用の調達別）

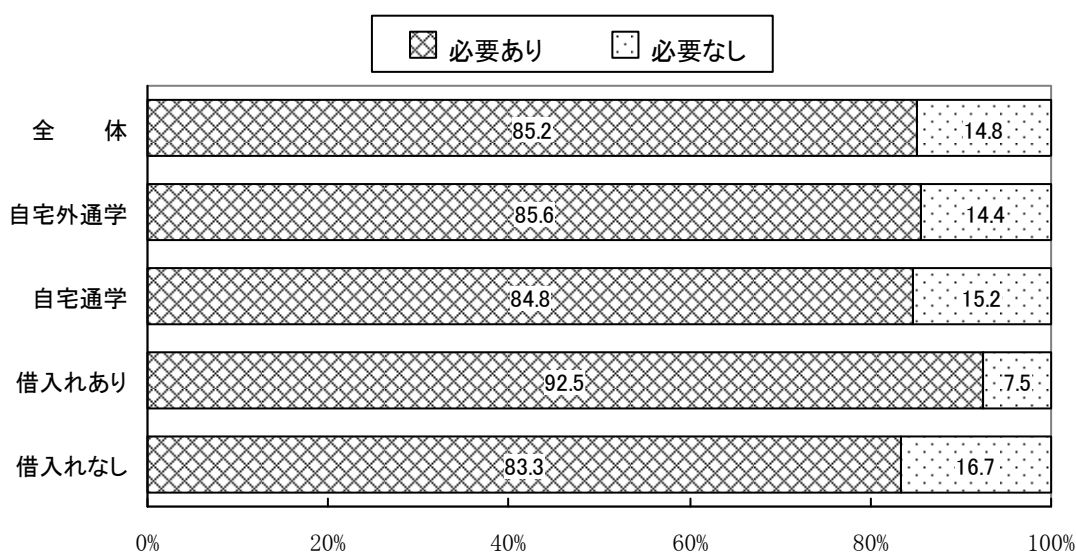


表10 授業料への直接助成制度「必要あり」の推移（全体／住居別、費用の調達別、学部学科別）

年度	全体平均	自宅外 通 学	自 宅 通 学	借入れ あ り	借入れ な し	文科系	理科系	医 科 歯 科 系	その他
04	86.6%	86.3%	86.9%	92.0%	80.4%	86.0%	87.3%	82.4%	89.2%
05	86.0	85.2	86.4	93.6	83.6	85.7	85.5	88.9	87.9
06	86.9	86.5	87.2	91.1	84.8	86.6	87.2	76.8	91.1
07	87.2	87.0	87.5	93.6	83.6	86.9	97.2	-	89.1
08	87.7	88.7	86.8	95.2	85.7	87.0	87.9	84.4	91.6
09	89.9	89.6	90.3	94.4	88.7	89.1	91.4	87.7	91.2
10	85.2	85.6	84.8	92.5	83.3	84.4	96.0	85.5	88.4

5 入学費用は5人に1人が「借入れ」で調達。借入額は158万円。
9割を超える家庭が入学費用を「重い」と感じている

1. 入学費用を「借入れ」した家庭は20.2%で、5人に1人の割合である。「借入れあり」を住居別でみると、「自宅外通学者」が「自宅通学者」に比べ高い傾向にある（表11）
2. 「借入額」の全体平均は157万9000円で、前年と比べ2000円増額した。「自宅外通学者」の「借入額」は178万5000円で、「自宅通学者」と比べ43万9000円多い（表11）
3. 受験から入学までの費用の「負担感」は、9割を超える家庭で『重い』（「たいへん重い」と「重い」の合計）と感じており、新入生を入学させた家庭の負担の大きさを示している（表12）
入学費用を「借入れ」した家庭では、99.7%が『重い』と感じている。住居別の「自宅外通学者」では、93.8%の家庭が『重い』と感じている（表13）

表11 「借入れあり」と「借入額」の推移（全体／住居別）

年度	全 体 平 均		自 宅 外 通 学		自 宅 通 学	
	借入れあり %	借入額 万円	借入れあり %	借入額 万円	借入れあり %	借入額 万円
2000	24.0	160.1	27.2	180.6	20.5	130.3
01	23.5	158.5	26.3	180.1	20.7	129.6
02	22.5	160.9	25.4	182.2	19.8	133.9
03	21.9	161.5	25.8	188.8	18.4	128.8
04	22.1	159.8	25.2	182.5	19.3	134.0
05	21.9	166.4	25.5	193.1	18.7	134.5
06	27.7	174.3	30.8	207.0	25.2	138.9
07	19.4	164.8	23.3	185.1	15.6	134.7
08	19.9	164.2	23.5	184.0	16.7	140.5
09	20.7	157.7	23.9	175.3	18.1	140.8
10	20.2	157.9	24.3	178.5	17.0	134.6

表12 「受験から入学までの費用」の「負担感」の推移（全体平均）

負担感	04	05	06	07	08	09	10
たいへん重い	40.4 %	40.1 %	38.8 %	40.9 %	40.5 %	44.0 %	46.4 %
重い	50.3	50.1	50.9	49.8	50.8	48.5	45.8
それほど重くない	8.3	8.9	9.2	8.2	7.5	6.5	6.7
重くない	1.0	0.9	1.1	1.1	1.2	1.0	1.1
重い(+)	90.7	90.2	89.7	90.7	91.3	92.5	92.2
重くない(+)	9.3	9.8	10.3	9.3	8.7	7.5	7.8
合計	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0

表13 「受験から入学までの費用」の「負担感」(資金の調達別、住居別)

負担感	借入れあり	借入れなし	自宅	自宅外
たいへん重い	73.9 %	39.3 %	44.0 %	49.4 %
重い	25.8	50.9	46.9	44.4
それほど重くない	0.2	8.4	7.8	5.3
重くない	0.1	1.4	1.3	0.9
重い(+)	99.7	90.2	90.9	93.8
重くない(+)	0.3	9.8	9.1	6.2
合計	100.0	100.0	100.0	100.0

切実な父母の声

- アンケートの中から -
(2010年度：記述部分より抜粋)

学費・家計・私大助成

教育費負担の軽減を願う

保護者としては、学費負担がかなり大変です。今回の国会への請願で、教育費の負担が少しでも軽減されることを願っています。(早稲田大学)

私大助成の大幅増額を

高校授業料の無償化、軽減の流れを学費等の多くかかる私立大学にも負担の軽減と私大助成の大幅増額を、ぜひともお願いしたい。(明治大学)

これほど経済的に大変だとは…

私立大学へ通わせることが、定期代や書籍代等も含めて、これほど経済的に大変だとは想像つきませんでした。高校無償化大賛成です。私大助成増額も早く実現したら良いと思います。(中央大学)

学費を軽減して

私大助成の拡大により、学費を軽減してほしい。(獨協大学)

早く直接助成制度を

愛知県は私学助成が幼稚園児から整っていたので、私学の高校に行かせていても、さほどの負担を感じませんでした。しかし、東京で下宿をさせて私立大学に行かせることに、大きな家計の負担を感じます。早く、直接助成制度を望みます。(東京経済大学)

私大助成増額の早い実現を祈る

私大助成増額の早い実現ができることをお祈りしています。(作新学院大学)

国立大学と比べると学費も高額

私立大学は、国立大学と比べると学費も高額なため、家庭の負担は大変である。(工学院大学)

何もかもがあまりに高額すぎ

これからの日本を担う未来ある若者たちが、経済的不安をもつことなく、勉学に励めるよう、私立大学に対する国庫助成を増額すべきだと思います。何もかもがあまりに高額すぎます。(東京家政学院大学)

学費負担軽減と私大助成の大幅増額を望む

子どもを自宅外の通学で私立大学に進学させたという余裕があると思われがちですが全くそうではなく、奨学金と子どものアルバイトを前提にしてのギリギリの選択でした。そのための学費負担軽減と私大助成の大幅増額を望みます。母と兄は病気のため働かず、父親一人の収入でやっております。(東京家政学院大学)

安心して大学へ通える制度を

高校は私立でした。指定校推選で合格したので受験料は安く済みましたが、入学金や学費が私立高校よりかかり、家計の負担になっています。国からの直接助成制度があれば本当に助かりますし、充実した学生生活をアルバイトで費やしてしまうこともなくなり、勉学に励むことができ、本来の学生としてやるべきことを4年間全うできると思います。一人でもこの不況時代の中でも、安心して大学へ通える制度の実現が望まれます。(和光大学)

2人目も受験を控えているので

子どもの教育を最優先に預金してきたが、入学してからの出費を考えていなかった。授業のために必要なパソコンや生活用品、通学のための服やカバン、クラ

ブ活動の経費、交通費等、卒業まで6年も続くと家計が耐えられないかもしれない。2人目も受験を控えているので、深刻な問題である。（明治薬科大学）

自宅以外からの通学になると家庭の負担が大きく
国公立大学に比べ私立大学の授業料が高いうえに、
自宅以外からの通学になると家庭の負担が大きくなります。ぜひ、私大助成の大幅増額に向けた改善をお願いします。（日本大学）

不況・病気・老後の不安

主人がリストラで年収も半分以下
数年前、主人がリストラに合い、今は年収も半分以下になりました。とても子どもを大学に行かせる経済状況ではなかったのですが、本人の頑張っている姿を見て「無理」とは言えませんでした。（早稲田大学）

収入が減ってくる時期でこれからが大変
昨年の収入は1,000万円でしたが、本年は母が退職したため年間収入は400万円、来年は父が退職の為、基本収入は0円です。子どもが大学生になるということは親が高年齢になり、収入が減ってくる時期、これからが大変です。（明治大学）

給与・ボーナスともに50%カット
夫の会社では、倒産した取引先があり、月に億単位の負債を抱えています。そのため、給与・ボーナスともに50%カットです。本当に厳しい生活を送っています。それでも、親として、子ども達に教育を受けさせる責任があると思っています。（中央大学）

住宅ローンもあり
授業料と生活費で毎月20万円ほどかかりますが、給料も下がりぎみであり、住宅ローンもあり、家計は大変です。教育ローンと奨学金を今後もあてにしなければなりません。（獨協大学）

老後も近いので学費は大きな負担
年収が減り老後も近いので学費は大きな負担です。まだ下に子どもがいます。（東邦大学）

大学卒業までの学費が心配
父の会社の定年退職が58歳。今月55歳になるので大学4年になって間もなく職を失うことになります。定年以前のリストラも無いとは言えないため、大学卒業までの学費が心配です。（東京経済大学）

本人も未来を案じている
この不況の時代、大学入学が決まった後、父が解雇され、入学金等支払った後だったし、とりあえず奨学金を申請したが、まだ結果も分からず大学中退も視野に入れて思案中だが、この就職難の時代で大学中退と、高校新卒では就職先も差がつくだろうし、本人も未来を案じている。（作新学院大学）

子どもの夢をかなえる為に必死で働く
母子家庭で高校卒業までは児童扶養手当や健康保険の制度等によりいろいろと助けられました。高校の授業料も免除となっていたので本当に助かりましたが、大学に進学するとそのような免除も全くなく、家計もとても厳しいです。体育大学への進学と共に寮生活を送っていますのでアルバイトをする時間的な余裕もなく、予定していたアルバイトの収入がゼロとなり、ますます厳しくなっています。子どもの夢をかなえる為に必死で働くにしても辛いものがあります。（国際武道大学）

母子家庭で大学生2人と高齢者を施設に入居
母子家庭で大学生2人と高齢者を専門施設に入居させ、そのお金も高額の為家計は逼迫状態です。子ども達は親の負担を少しでも軽くする為、アルバイトを頑張っています、大学後や土、日にアルバイトをしすぎて学業が疎かになる事が懸念されます。（工学院大学）

どの子も安心して学べる社会に
家のローン、介護老人をかかえた上、どうしても私立中学を望んだ中1の子どもの教育費がかかる。子どもたちの夢をかなえるためになんとか希望校へ行かせているのが現状。年々ボーナスも減り、本当に厳しい

です。どの子も平等に学校で安心して学べる社会になってほしいです。
(和光大学)

弟も2年後大学受験

私立薬大に通学しています。年間授業料200万×6年間は、サラリーマンには負担です。弟も2年後大学受験をひかえています。親の老後の生活の蓄えもできず、今後不安です。国立大学の受け入れ数は少なく、また自宅から通学できないため、下宿させると、私大に入学させた金額と同じになり、国立でも私立でも大変です。
(明治薬科大学)

親の収入が減るかもしれない

子供の希望する大学に進学させたものの、不況のせいで親の収入が減るかもしれない事を考えると、4年間の学費や生活費がとても心配です。
(武蔵野美術大学)

奨学金・教育費減税

年収だけで判断するのはおかしい

大学の奨学金は年収制限があります。我家は借りられません。でも家のローンがあるので実質的には苦しいです。年収だけで判断するのはおかしいです。
(早稲田大学)

就職が大変なおり返済の不安が大きい

2人の子ども共、奨学金を借りて大学生活を送っています。卒業後、自分で返す約束をしています。就職が大変なおり返済であり、親としても返済の不安が大きい。
(明治大学)

奨学金のお陰で大学へ通うことができ

子どもは奨学金のお陰で行きたい大学へ通うことができ、幸せだと思います。しかしながら、社会人になって(雇用が不安定の中、就職できれば良いが)、返済していくことは分かっているとは言え、大きな負担です。
(中央大学)

娘が就職難のため返済も不安・心配

2人の子どもでそれぞれ有利子の奨学金をお借りし

ておりますが、うえの娘が就職難のため、卒業後の返済なども不安・心配がつのります。(東京経済大学)

給費制奨学金の制度をつくって

卒業しても安定した就職状況ではないので、全額ではなくとも給費制奨学金の制度をつくってほしい。
(麻布大学)

奨学金を頼っての進学

奨学金を頼っての進学です。就職難の時代に返済を考えると心配です。学びたい人が、お金に左右されずに学べる環境になるといいと思っています。
(獨協大学)

大学生の親に税の優遇を

大学生の子どもを持っている親に、税の優遇をしてもらえたらと思う。学費がそして子どもたちへの生活費の仕送りが、家計を圧迫しているので、助成制度や税での控除など、国に考えてもらいたい。
(東邦大学)

審査が通らず今大変

奨学金の申請をしたのですが...審査が通らず今大変です。私大でも自宅から通学出来ない子供は、授業料以外生活費(家賃)もかかります。ぜひ宜しくお願いします。
(国際武道大学)

保証人制度の見直しを要望

奨学金制度の保証人に父母以外の人になってもらうことは困難である。保証人制度の見直しを要望します。
(工学院大学)

奨学金も利子・返済が長期、将来の就職状況に不安
大学卒業まで学費を払いきれるかという不安は常にあります。子供を安心して学ばせるための何らかの対策があれば...と思います。奨学金も利子があり、返済が長期になります。将来の就職状況に不安がありますが、奨学金なしでは学費が払えないので借りている状態です。
(明治薬科大学)

無利子奨学金を希望者全員に
学費軽減を希望し、無利子奨学金を希望者全員に給
付できるようにしてほしい。 (武蔵野美術大学)

奨学金希望者全員への支給及び無利子化の実現を
奨学金希望者全員への支給及び無利子化の実現を望
んでいます。また国公立大学との納付金格差の減少を
希望します。 (日本大学)

学生生活・アルバイト

入学直後から就職を意識の大学生活
親の世代と異なり、パソコン、携帯代など便利で安
心ながらランニングコストのかかる生活必需品が増え
た気がします。また入学直後から就職を意識せざるを
得ない大学生活も厳しい現実です。いろいろな意味で
もう少し余裕ある学生生活を送らせてやりたいと思っ
たのです。 (早稲田大学)

大学生活はきりつめている
浪人したあとの私立大学入学で東京での1人暮らし
は、膨大な出費でした。大学生活はきりつめているよ
うです。サークル等もお金がかかるからとためらって
いるようです。自宅通学と地方から行って一人暮らし
をする学生とあまりにも親の負担、子ども達の学生生
活にも差があると思います。 (明治大学)

子どものバイトのお金を学費に
親としては子どもにはバイトはさせたくはありません。
でも現実、父親・母親が働いていても学費が高いた
め、子どもにもバイトのお金を少しでも出してもら
って学費にあてています。学費軽減をしてもらい、バ
イトせずに勉強し、大学生活をくいのないように子
どもには送ってもらいたいのが、親の願いです。
(東京家政学院大学)

本人のアルバイト収入も頼り
大学受験には思った以上にお金がかかり、入学すれ
ば、これからもかかります。家族だけの負担は無理で
すので、本人のアルバイト収入も頼らねばなりません。
(日本大学)

勉強が楽しい、毎日が充実している
息子は中学の時不登校で、なかなか自分の将来が見
えず、勉強というものに真剣に取り組んだのは昨年か
らでした。先日息子から電話がありました。勉強が楽し
い、毎日が充実している。学校に慣れたので6月か
らアルバイトをする。自営業で経済的にはとっても苦
しいですが、母親としては、そんな息子を応援したい
です。 (獨協大学)

往復4時間かけて大学へ
往復4時間かけて、大学へ通わせています。希望の
学校に入学できましたが、乗換や通勤通学電車の中
では、勉強時間もままならない様子です。一人暮らし
をさせたくても、費用がかかるので現在はさせていま
せん。本人もアルバイトをしており、協力していますが
とても経済的に苦しいです。 (東邦大学)

アパートを借りています
アパートを借りていますが、家具家電付き、光熱費
込みなので、6月以降は送金なしで、アルバイトで生
活費を何とかしてもらおうと思っています。
(作新学院大学)

体育系のため遠征費等が必要
体育系のため、想定以上に遠征費等が必要であり、
学費以外の面での負担の大きさを懸念している。
(国際武道大学)

本人は熱心に勉学に励んでいる
奨学金を学費に充て、その他の小遣い、衣類、交通
費等は全て本人のアルバイトでまかなってもらわな
いと生活していけないのですが、本人は熱心に勉学に
励んでいる。子どもには援助してやることができず、申
しわけなく思っています。 (工学院大学)

3年生からの就職活動はやめて
3年生からの就職活動はやめてほしい。4年間しっ
かりと学ばせてあげたい。 (麻布大学)

親の方が昼とは別に夜もバイト
仕送りが少ないと必然的にアルバイトをしない生活
できなくなります。子どもがアルバイトしすぎないよ
う、親の方が昼とは別に夜もバイトしています。
(武蔵野美術大学)

政治に要望

ヨーロッパでは

ヨーロッパでは、ほとんどの大学の学費が無料だと聞いています。税制等を有効的に使えるよう改革すべき。教育費だけではどんどん上昇しているのはおかしい。大学も安く行けるよう考えるべき。(明治大学)

親の収入格差が子どもの将来の格差ならぬよう

親の収入格差が子どもの将来の格差に繋がってしまうことがないように、無理をしても本人の希望どおりの進路に進ませたい。あらゆる子の可能性を親や育ちの環境のせいで諦めさせることは、国の財産の損失であると思う。(中央大学)

どの子にも平等に教育の場を

親の収入により、子どもが受けられる教育に差が出るのが現実です。どの子にも平等に教育の場を与えられるよう国の援助が必要です。家族の生活を切りつめて大学に通わせている家庭がたくさんあります。持ち家を売って大学の教育費にしたという話しもたくさん聞きます。(東邦大学)

国公立に比べ私立は補助が少ない

国公立に比べ私立は補助が少ないので、国も公平に考えてはどうか。(獨協大学)

本当にお金が必要なのは大学生

現在、子ども手当、高校補助等がありますが、本当

にお金が必要なのは大学生です。(獨協大学)

ヨーロッパ並みの大学授業料に

ヨーロッパ並みに大学授業料を無料に近くし、しっかりと社会に役立ち学問に専念できるようにしてほしい。そうでないと日本の将来はまっ暗です。

(東京経済大学)

教育を受けたい学生に差があってはならない

国立大と私立大でこれほど差があったとは知りませんでした。教育を受けたい学生に差があってはならないと思います。誰もが平等に学べるように国の補助等を切に望みます。(作新学院大学)

子ども手当よりも大学生手当

子ども手当よりも大学生手当がほしいくらいです。親の収入が子どもの学歴や職業選択まで決定するような仕組みを何とかしてほしい。(麻布大学)

国の将来を支える人材のためにも

50%の大学進学率であるため、大学授業料の50%国庫補助が必要と思います。大学4年間で身につける教養は、国の力となるものである、国の将来を支える人材を創り出すためにも、国庫補助の増額が必要と思います。(和光大学)

国はもっともっと知ってほしい

子どもを大学へ通わせるために親は大変な苦勞をしていることを、国はもっともっと知ってほしい。

(日本大学)

